

(様式第4号)

上田市環境審議会 会議概要

1 審議会名	第7回環境審議会
2 日時	平成30年10月30日(火) 午後2時00分から午後3時55分まで
3 会場	市役所本庁舎 6階 大会議室
4 出席者	栗木 俊郎委員、召田 祐治委員、一之瀬 禮子委員、上原 けさ恵委員、 松田 耕治委員、末広 繁和委員、吉原 泉委員、北嶋 忠治委員、丸山 かず子委員、 松井 よし枝委員、高橋 伸英委員、池田 一弘委員、春原 宗明委員、
5 市側出席者	山口生活環境部長、柳沢生活環境課長、大森環境政策担当係長、中野環境政策担当 主事、宮下環境保全担当主事、母袋環境政策担当主事
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	平成30年11月2日

協議事項等

1 開 会 (柳沢課長)
2 あいさつ (山口部長)
3 協議事項
(1) 平成30年度環境レポートについて
・大森係長から概要を説明
・以降、協議
(委 員) 一般騒音の調査とは何を測っているのか。車の通行による騒音のみを測定しているのか。
(事務局) 車に限らず、測定器周辺で発生するあらゆる音の大きさを測定している。
(委 員) 騒音の大きさは平均値なのか。瞬間的に基準値を超えるような大きな音は発生しているのか。
(事務局) 測定時間帯ごと(昼間16時間、夜間8時間)に生じた騒音の平均値を示している。瞬間値を詳しく把握していないが、基準値を超えるような大きな音も瞬間的に発生していると思われる。
(委 員) 地下水の指標項目が環境基準に達していない地点があり、その原因として、余剰な施肥や生活排水の影響を挙げているが、今後、こういった対策を考えているのか。
(事務局) 生活排水の影響については、下水道普及率や合併浄化槽の普及率の上昇を考えている。肥料については、農協と協力し肥料の適正量の使用を周知していく。
(委 員) 地下水調査では、ここ数年で大幅に数値が上昇している地点があるが、その対策はあるのか。産業廃棄物処理場が付近にあるといった原因は考えられるのか。
(事務局) 原因の究明ということとは行っておらず、対応としては、地下水調査の結果を送付し、地下水の飲用をしないように県と共同で周知を図っている。しかし、今後は原因の究明ということも含めて検討していきたい。
(委 員) レンタサイクルの利用者数の目標値は、上田市の規模として適正なのか。他市との比較などはあるのか。
(事務局) 第二次上田市環境基本計画では、目標値を上方修正している。他市の状況については、不明である。今後、調査していきたい。
(委 員) オレンジバス・循環バスの利用者の減少について、その原因は利便性の問題なのか、単純に利用者の母数の問題なのか。利用者の減少率ほど人口は減少していないはずだが、原因をどのように解析しているのか。
(事務局) 人口減少と自動車保有率の増加の2つが原因であると考えている。バス利用者の増加に

向けて、広報での周知等を行っている。利用者数の増加に向けて細かな要因分析をし、検討していきたい。

(委員) オレンジバス・循環バスの周知がそもそも不足していると思う。

(委員) バスでは病院に行った後に買い物に行くなど個人の希望に沿うことが難しい。利用したい人はいると思うが、そういった点で満足度が低くなっていると感じる。

(委員) 遊休荒廃農地の解消に取り組む支援とはどのようなものか。

(事務局) 荒廃農地の整備に関して、10 a 毎に補助金を出す支援を行っている。

(委員) 河川愛護団体(94 団体)がこんなにあることに驚いた。素晴らしいことで、もっと周知しても良いのではないか。

(事務局) 今後も、協力していただける団体の増加に努めていきたい。

(委員) 水生生物調査についてどのような団体、個人が参加しているのか。

平成 23 年度と比較して参加人数はかなり減少しているが、調査への参加呼びかけ等を行っているのか。

(事務局) 基本的には職員が調査している。他には、職場体験やインターンシップの学生、公民館で開催しているイベントでの参加者などである。

かつては調査への参加を呼びかける等を行っていたが、現在はしていない。今後、呼びかけ等を行うことを検討する。

(委員) 河川調査は大学でも行っているが、そういった人数は入っているのか。

(事務局) 含まれていない。今後、そういった情報も集めていきたい。

(委員) 松くい虫対策の現状を教えて欲しい。松くい虫への対策を行うことで、松くい虫被害木の処理量を減らすという目標にはできないのか。

(事務局) 目標値より多くの被害木が存在し、それを限られた予算の中で処理をしているという状況である。また、マツノザイセンチュウの感染予防として、松の幹に薬剤を注入することも行っている。

(委員) 目標値は何に基づいて設定されているのか。

(事務局) 限られた予算の中で対応できる処理量として設定している。

(委員) 上田市内の事業者からの温室効果ガス排出量を把握できないのか。市関係機関からの温室効果ガス排出量の目標値は国の目標値に準じる値なのか。

(事務局) 上田市内の温室効果ガス排出量は把握しておらず、計算していない状況である。市関係機関からの温室効果ガス排出量は、2013 年度比で 2023 年までに 9.3%、2030 年度までに 40%の削減を目指しており、これらの数値は国の目標を基に設定したものである。

(委員) 一般家庭の太陽光発電設備の目標値について、目標値(30,000 kW)に達するまで補助金を出していくのか。目標と現状値のギャップが大きいと思うが、目標の見直しではなく、目標に近づくための施策はないのか。

(事務局) 第二次上田市環境基本計画では、具体的な目標値を設定していないが、増加を目標に今後も取り組む予定である。今後は、太陽光発電の自家消費の促進に向け、蓄電設備への補助金などを検討し、一般家庭への太陽光発電設備の導入を促進していきたい。

(委員) 景観ウォッチングとはなにか。どういったコースでどのようなことを行うのか。

(事務局) 景観ウォッチングでは、講師をお招きし、ウォーキングしながら上田市内の良好な景観についてお話を聞くことで、景観について考える機会を設けている。年 2~3 回、その都度コースを変えながら実施している。

(委 員) 里山整備ボランティアの活動回数は増やすことはできないのか。外部への呼びかけは行わないのか。

(事務局) 担当課と協議し、目標の達成にむけての取組を検討していきたい。

(委 員) アダプトシステムとはなにか。

(事務局) アダプトとは養子縁組を意味し、協定を結んでいただいた団体に、公共スペースを里親のように愛情をもって整備・美化していただくものである。

(委 員) まちづくり活動拠点の 5 箇所を教えて欲しい。

(事務局) 豊殿地域自治センター、塩田地域自治センター、川西地域自治センター、城南公民館、西武公民館の 5 つに設置させている。

(委 員) 児童による田植えへの参加人数の減少理由は何か。参加する学校の減少に由来するのか。

(事務局) ここ数年に関しては、変わらず小学校 20 校が参加しているため、児童数の減少が大きな要因であると考えている。

(委 員) 今回は平成 30 年度の報告ではあるが、平成 29 年度の実績報告なので、環境レポートの表紙などに、いつの期間のデータなのかを明記してほしい。また、市民に広く見てもらうには、もっと絵や写真が挿入された方が見やすいと思う。

(事務局) データ収集期間の明記について、ホームページに掲載するまでに修正していく。

(委 員) 水質調査について、地点を表示されるとその地域全体の水が汚染されているような印象を与えてしまう。注釈にて、基準値の超過理由などを挿入してほしい。

(事務局) 表記方法やホームページでの掲載方法について検討したい。

## (2) その他

- ・柳沢課長から任期満了による審議委員の改選についての連絡

## 3 閉 会